

おおづまち議会だより

OZU

2026

114号

今月の定例会は

12月

3月

9月

6月



本会議動画
配信中



議会だよりが
読めるアプリ

マチイロ



令和7年度12月補正予算



12月定例会は、12月4日から18日の15日間の会期で開催され、町長提案の一般会計をはじめとする条例4件、規約の一部変更1件、指定管理の指定2件、補正予算8件、最終日に追加された補正予算1件、人事案件3件の計19件が審議され、可決されました。

また、一般会計では**5億4千万円**が増額補正され合計**202億5,947万円**となりました。

一般会計補正内容（抜粋）

子育て支援について

・物価高対応子育て応援手当支給事業 **1億6,007万円**

町営住宅について

・あけぼの団地9号棟屋上防水シート改修工事
当初予算720万円 → 補正後1,360万円

災害復旧について

・町道杉水原水線法面崩壊災害復旧工事
補正前300万円 → 2,100万円

・農業用施設災害復旧工事 **2,355万円**

※上に挙げた予算以外にも特別会計含め様々な事業予算が上程され可決となりました。

議員の賛否を公開します

上程された議案・概要	坂本典光	岩下啓史	中山直之	清原さおり	大塚勝二	村山龍一	大村裕一郎	田代元氣	時松智弘	西川秀貴	大塚益雄	三宮美香	山部良二	山本宣夫	豊瀬和久	佐藤真二	賛成○	反対●
大津町乳児等通園支援事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の制定について	-	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	13	2
大津町老人福祉センターの指定管理者の指定について	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	●	○	14	1
大津町楽善ふれあいプラザの指定管理者の指定について	-	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14	1
大津町工業用水道事業会計補正予算(第1号)について	-	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	14	1

※議長は議事進行を行うため賛否表明はしません。賛否の分かれた議案のみ掲載しています。

■賛否表 ○は(賛成) ●は(反対) 棄は(棄権) 欠は(欠席)

その他の議案については議会ホームページをご覧ください。

大津町議会

検索



議員の視点

(本会議での質疑の一部を抜粋して掲載しています)



ときまつ ともひろ
時松 智弘
議員

問 こども誰でも通園制度の実施について、看護師、准看護師、保健師または助産師や喀痰吸引などの研修を行った職員を用意できる園がどれくらいあるのか。

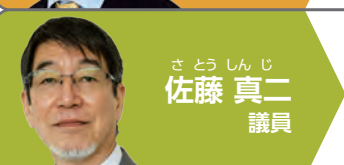
答 医療的ケアが必要なこどもたちに対する体制について、大津保育園は配置済、今後、各私立保育園等も必要であれば配置していただく。



おおつか かつ じ
大塚 勝二
議員

問 こども誰でも通園制度の先行自治体では利用時間が10時間では足りないとの声もある。複数自治体の事例や課題を事前に十分調査し、独自の対策を行っていく方がいいのではないか。

答 他自治体の先行事例は調査しており、特に子どもが環境に慣れる点を重視している。まずは受皿確保を優先し、国の制度に沿って実施しながら、状況に応じて検討していく。



さとう しん じ
佐藤 真二
議員

問 今年度初めに遡及する職員給与増額が途中退職者にも適用されるならば、条例の附則に明記したほうがより明確になるのではないか。

答 条例への明記は、今のままでも問題ないが、他自治体も確認、研究し次回考える。



とよ せ かずひさ
豊瀬 和久
議員

問 町老人福祉センターの指定管理によるサービス向上や経費面の具体的な効果、増額した管理料の要因と内容、審査で高評価だった点と課題を明示してもらいたい。

答 サービスは向上したが、物価高や設備保守費の増額で経費が膨らんでいる。審査では事業提案や安全管理の評価が高いが利用拡大の工夫など利用者以外の意見反映が課題である。



さんのみや み か
三宮 美香
議員

問 老人福祉センター指定管理料に、老朽化にともなう修繕費が含まれているのか。

答 前回、修繕費を計上していたが3分の1程度しか使われていない。今回も修繕費は含まれている。



にしかわ ひでつぐ
西川 秀貢
議員

問 ガスヒートポンプの納入可否を確認せず、2億円超の契約を結び、完成期限も見通せず凍結に至った対応は、行政の認識の甘さを示している。また、この説明で本当に町民は納得するのか。

答 工期の設定に当たり設計コンサルタントが納入状況を調査。必要となる機械、電気設備、建築工事など、期間を見積もったうえで適正な工期を設定していると認識している。



たしろ げん き
田代 元氣
議員

問 町民グラウンドはAコート、Cコートの利用頻度が高いが、なぜBコートの改修を行うのか。また、利用者や指定管理との協議は行ったのか。

答 Bコートは碎石が出てきており危険な状況のため先に補修を行う。利用者との協議は行ってないが、指定管理者とは協議している。



やまもと ふ じ お
山本 富二夫
議員

問 鳥子川1号マンホールポンプ復旧工事は670万円だが、今までは、1号ポンプがなくても他のポンプで補っていたのか。今回の復旧工事はなぜするのか。

答 以前は今回の範囲内に居住者がいたためマンホールポンプを設置していたが、不在となり撤去した。今回、住宅の建設により復旧する。



やま べ りょうじ
山部 良二
議員

問 浄化センターの通報装置が故障した場合、早期の察知ができなくなり、発見が遅れ、ポンプの故障など事故につながるが、具体的な対応を問う。

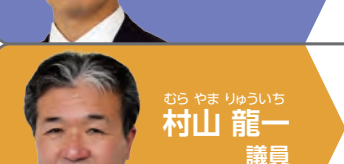
答 対応としては下水道課の職員が、毎日電話で確認をし、また、管理業者も週2回から3回現地で確認を行っている。



いわした けい し
岩下 啓史
議員

問 水源地造成に伴う取水量増加が地下水保全に与える影響をどのように考えるか。あわせて、令和11年度以降に見込まれる約1000㎡増加の根拠について説明を求める。

答 地下水保全条例に基づき、取水量に見合う100%の涵養対策を実施する方針で、町有林の涵養量を活用する。取水量増加は需要量調査により既存設備では不足することがわかった。



むら やま りゅういち
村山 龍一
議員

問 工業用水道事業の第5水源地の増設による経営戦略はどうなるのか。それに伴う下水道の管路は大丈夫なのか。

答 工業用水道の経営戦略は見直す。排水量の増加分は下水道の管に余裕があるので問題ない。

委員会レポート

総務委員会



総務委員会・経済建設委員会・文教厚生委員会の3つの委員会があります。議員は必ずいずれかの委員会に属しています。本会議にて各委員会に委ねられた議案は委員によるさらに深い審議を経て、委員長が議会で報告します。

経済建設委員会



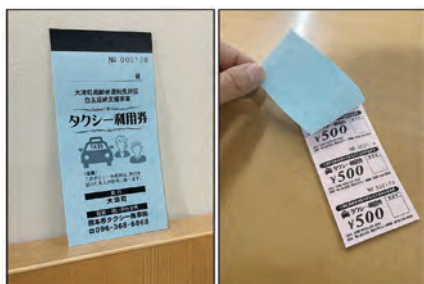
文教厚生委員会



総務常任委員会	総務課 総合政策課 財政課 防災交通課 人権推進課 住民課 環境保全課 税務課 会計課 議会事務局
経済建設常任委員会	農政課 商業観光課 企業振興課 都市計画課 建設課 下水道課 工業用水道課 農業委員会
文教厚生常任委員会	福祉課 子育て支援課 介護保険課 健康保険課 学校教育課 教育施設課 生涯学習課

町の安心と運営を支える 総務委員会 レポート

暮らしに身近な 事業の課題と対応



切り取り式冊子のタクシー券

◎ 高年齢者運転免許証自主返納支援事業について、タクシー券の印刷製本費が高額ではないか。また、一回限りの交付であれば、町内事業者限定にするなどコスト削減を図れないか。

◎ タクシー券は切り取り式冊子で指定用紙を使用しており費用がかかっている。町内事業者の活用については、今後検討していく。

意見 バスICカードからタクシー券を選択できるようにする際、乗合タクシーのエリアを適用するなどは、選択できる基準については設ける必要があると思われるため精査してほしい。

◎ コストは適正なのか

◎ 街灯盤や特殊街灯とは何か。また、修繕内容の内訳はどうなっているのか。あわせて、町内でいまだにLED化されていない街灯はどれくらいあるのか。

◎ 街灯盤は美咲野のメイン通り沿いにある腰高街灯の管理設備で、特殊街灯はその街灯を指す。点灯しない10基は水銀灯のためLED化が必要である。修繕は老朽街灯の建替えや照明交換を行うもので、未LED化は美咲野区内とイオン北側通りの一部のみとなっている。

街灯修繕とLED化の現状



水銀灯が使われた街灯

定例会総括

議員の視点

委員会レポート

一般質問

委員会からの
政策提言

委員会視察報告

議会改革
推進特別委員会

尚絅大学

翔陽高校

くらしと産業の土台を創る 経済建設委員会 レポート

早めの対応で 事業を進める

Q 道路新設改良で事業を前倒して計画するとはどういうことか。

A 工業団地周辺道路の代替え道路整備に伴う地盤改良工事や杉水西地区の排水路整備について、未整備区間をできる限り着手したいと考えている。配分された国費を確実に執行するために前倒しで行う。

予算を無駄なく
事業を前倒しで



杉水水迫線



第5水源地の候補地

Q 水源地の増設は令和7年3月改定の経営戦略には入ってなかった。なぜ、第5水源地を作るようになったのか。

A 計画時に使用水量の増加要望があり、供給量不足が懸念されていた。調査の結果、新たな使用水量増加の要望があったため、第5水源地を増設することにした。

第5水源地増設

教育・子育て・福祉を所管する 文教厚生委員会 レポート

無駄なく 効率的な運営を



大津北中学校体育館

Q 学校体育館に空調を整備するのであれば、断熱工事も実施した方が良いのではないか。

A 断熱工事も行う。断熱工事は国の交付金の要件となっている。以前は屋根や外壁などの比較的大規模な工事が求められたが、現在は何らかの断熱対策を実施することになり緩和されている。窓ガラスへの遮熱フィルムや遮熱カーテンの事例もある。空調設置だけ先行し、後で断熱工事をするのも認められている。

断熱工事も必要ではないか

Q 後期高齢者の人間ドック受診数は年々増加しているのか。また、人間ドックの個人負担額はいくらか。

A 団塊世代が該当年齢となり後期高齢者が増え、受診者数も増加している。受診に対して2万5千円を補助している。検査項目を追加する場合などは、個人負担となる。

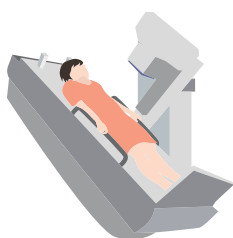
国民健康保険の人間ドック受診
費用を補助します

ページID:0001882 更新日:2023年12月5日更新

▶ ページ内目次

大津町では、国民健康保険の保健事業(疾病予防及び健康増進)のひとつとして、人間ドックの受診費用の補助を行っています。受診を希望される人は下記の確認事項をよく読んで申し込みください。

町ホームページより



一般質問

町政を問う 12月定例会

一般質問に16人中15人が登壇



録画配信は顔写真横の二次元バーコードからご覧になれます。

町のさまざまな問題・課題について、議員が町に考えを質するのが一般質問です。議員は政策提言も含め、質問することができます。ここでは、質問した議員ごとに一項目を要約してお知らせします。一般質問のライブ・録画配信は行っています。

※一般質問の記事に関しましては、各自が編集したものを掲載しています。

Q 障がいのある子どもの小学校入学ガイドを作成すべき

A より包括的で分かりやすいガイドへ改善したい



出典：インクルネット西宮HPより

とよせ かずひさ
豊瀬 和久議員



Q 入学は保護者にとつて大きな節目であり、進路選択に不安を抱える声が多く聞かれる。通常学級・特別支援学級・特別支援学校の特徴や支援内容、相談先、先輩家庭の体験などを分かりやすくまとめた「障がいのある子どもの小学校入学ガイド」を町が作成し、デジタル版も併せて提供することで、保護者の不安を軽減し、子どもたちが安心して学び始められる環境を整えるべきではないか。

A 障がいのある子どもと保護者が安心して小学校入学を迎えられるよう、分かりやすい情報提供は重要だ。本町では現行パンフレットがあるが、進路選択の初期段階には十分と言えない部分がある。

今後、通常学級を含む各学級の場の支援内容や一日の流れ、事例などのほか卒業後の支援などの状況も見通せるようなパンフレットの改善を行うとともに、関係機関と連携しながら保護者に寄り添った支援を進めていきたい。

(教育長)

その他の質問

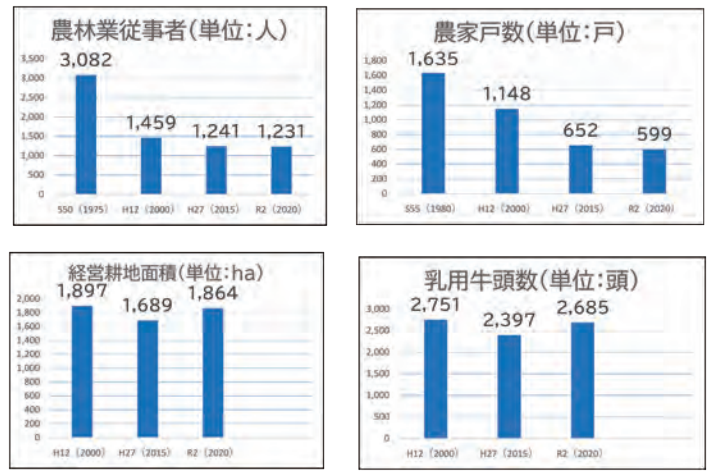
- ・全国手話検定受験料への助成について
- ・障がいのある方に対する避難支援について

Q 大津町の農林業振興をどのように進めていくのか

A 農林業関係者の生の声を聞いて継続的に着実に進めていく



むらやま りゅういち
村山 龍一議員



Q 全国で農業従事者が、5年前の調査と比べ25%減少し、熊本県では24%減ったと報道があった。町内の農家数は、平成12年は千戸から15年後の平成27年で652戸と半減している。経営耕地面積は10%減少した。林野面積も減少している。これからの農林業をどのようにするのか。農林業関係者の声をどのように聞いていくのか。林業振興のために森林環境譲与税を活用するのか。

A 本町は農業工業商業が相互に支え合う農工商併進によって発展してきた。農林業従事者数や総農家数は減少傾向が続くが、経営耕地の面積や乳業の頭数はおおむね維持ないし拡大している。農林業振興の取組を「継続」「短期」「中期」「長期」で整理し、5年後10年後、さらにその先の姿を見据え着実に進めていく。林業も生産基盤の整備や適切な森林管理を進める。森林環境譲与税は間伐や基盤整備に加え、担い手の育成や管理体制などに活用したい。今後も町民懇談会や農業団体の生の意見も聞いていきたい。

(町長)

その他の質問

- ・「町の道路整備」について

Q 児童生徒が安心して利用できる取り組みを

A 学校と連携し、適切な管理・運営に努める



たしろ げんき
田代 元気議員



大津小学校運動場

Q 町内小中学校の運動場について、グラウンド中央にまで雑草が生い茂っており、体育の授業や社会体育での利用に支障をきたしている状況である。今定例会の文教厚生常任委員会の現地確認においても全学校を訪問し、委員会としても重要な課題であると認識している状況で、学校へのアンケートでも、グラウンドの状況は悪くなっている。

A 運動場は健やかな成長を支える教育施設であるとともに、災害時の屋外避難所としても重要な施設であると認識している。引き続き各学校やPTAの皆様の協力も得ながら、繁茂が厳しい長期休業中の期間に重点を置いた管理について早急に検討していく。(教育長)

その他の質問

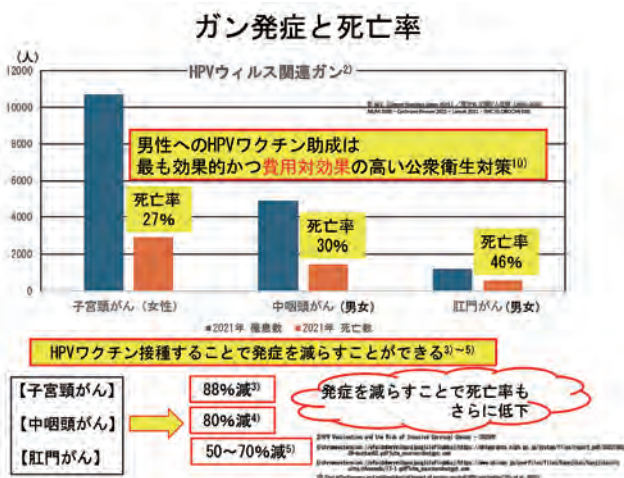
- ・プレミアム商品券について
- ・子育て支援拠点設置に伴う防犯対策について

Q 男性へのHPVワクチンの公費導入を

A 男性への公費助成制度は考えていない



おおつか かつじ
大塚 勝二議員



その他の質問

- ・小中学校の少人数学級化
- ・教職員働き方改革について
- ・喫煙所の設置について

Q W H O によると HPV ワクチンは子宮頸がんだけでなく、男女接種を行うことで中咽頭がんなどの予防効果があり費用対効果の極めて高い政策である。将来の医療費抑制や健康寿命を伸ばすことにもつながる。女性性は国の公的助成により接種しているが、男性接種を含めた中長期的な予防施策と、正確な情報発信の必要性が大事ではないか。今後の方針について町長に問う。

A 命と健康を守る観点からこの課題の重要性を認識しており、まずは国

制度に基づく女性の定期接種や検診受診率の向上、科学的根拠に基づく丁寧な情報提供に力を入れていく。男性接種についても、国の制度動向や先行自治体の事例を注視しながら、将来に向けて検討材料を整理していく。

(町長)

A 現行制度の中で、女性の定期接種の利用を二層進めることを当面の最優先の取組として位置づけていて、現時点で新たに男性への HPV ワクチン接種に対する公費助成制度を設けることは考えていない。(健康福祉部長)

Q 自転車交通反則通告制度導入への対応は

A 家庭・地域と連携し安全対策を図る



さんのみや みか
三宮 美香議員



自転車のスマホ・酒気帯び
罰則強化

ながらスマホ 酒気帯び運転

令和6年11月1日 道路交通法改正

自転車運転中の新たな罰則

警察庁・都道府県警察

例①：携帯電話使用等	→ 12,000円
例②：通行区分違反	→ 6,000円
例③：一時停止違反	→ 5,000円

その他の質問

- ・役場窓口受付業務時間の見直しと働き方改革の推進について

Q 道路交通法改正により、令和8年4月から自転車の交通反則通告制度(青切符)が導入される。自転車関連事故は全交通事故の2割を超え、信号無視や右側通行、一時不停止などに反則金が科される。16歳以上が対象だが、実質的には家庭への影響も大きく、小中学生を含む町民全体への交通ルールを徹底と安全教育が急務である。町として、学校・警察・地域と連携し、自転車の安全利用と事故防止にどのような取り組みでいくのか。

A 警察や交通安全関係団体と連携し、交通安全講話や啓発活動を実施している。法改正を機に、取締りではなく命を守る意識の共有を重視し、学校・地域・警察が連携した分かりやすい周知や多言語対応も含め、事故防止に取り組む。(町長)

A 小中学校では発達段階に応じた交通安全教育を実施している。青切符制度導入を踏まえ、信号無視や右側通行の危険性などを具体的に指導し、成長段階での意識の切り替えや家庭・地域と連携した安全教育の充実を図っていく。(教育長)

Q 稼げる農業への転換がさらに必要ではないか

A 継がせたいと思えるよう農業経営を支えていく

おおむら ゆういちろう
大村 裕一郎議員



Q 農業における後継者がいる割合は、所得が多いほど高い傾向にあり、農業所得金額が700万円を超えてくると段階的に後継者が増加する。また、農業を継いでいない方への県のアンケートでも「農業で家族を養える十分な収入があったなら継いでいた」と回答された方が全体の半数を占めており、稼げる経営体を増やすことが必要である。そうしたことを踏まえ、稼げる農業への転換のため、農業における普及指導員などと連携協力し、経営に関する学びの場や

利益率を上げるための技術に触れる機会をさらに増やすべきではないか。
A 町としては、次の三つの方向性で改善していきたいと考えている。①経営力向上支援の強化、②民間主催セミナーの情報発信強化、③新技術販売戦略へのアクセス拡大。これからの農業を続けたい、子や孫に継がせたいと思っただけのような稼げる農業経営を支えるまちづくりにはしっかりと取り組んでいく。
(町長・産業振興部長)

その他の質問

- ・位置情報アプリのリアルイベント誘致について
- ・科学館について

Q 陣内踏切が開かずの踏切に

A 県と連携し安全対策を進める

やまべ りょうじ
山部 良二議員



このままでは、**陣内踏切が開かずの踏切に！**

肥後大津～宮地間20本上り18本合わせて38本・肥後大津～熊本アクセス鉄道間・片方向普通/47本・快速14本合わせて61本の列車が走行 合わせて**162本**の列車が走行する予定



陣 内 踏 切

Q 現在、肥後大津～宮地間、上下合わせて38本の列車が走っているが、アクセス鉄道が開業すれば合わせて約162本の列車が走行する。大津駅下り方面最初の踏切で役場に隣接した非常に交通量が多い踏切でアクセス鉄道が開業すれば、朝夕の通勤時間帯だけではなく一日中渋滞が発生する恐れがある。今の整備計画のまま着工に踏み切れれば、町民は「未来永劫」渋滞に悩まされると思うが立体交差にする必要が

あるのでは。また、住民説明会で説明はしたのか。
A 踏切を立体交差にする、いずれの方式をとった場合でも住宅地や町役場へのアクセス機能に大きな影響を与え、町の財政や他の基盤整備とのバランスに大きく影響するたため考えていない。一方で安全・渋滞対策は進めていく。遮断時間や交通量の変化を検証し、遮断機の更新や視認性の向上などの安全対策や南北道路の整備についても、新たな

ルートの設定など交通を分散させることで、踏切に過度に車両が集中しないよう、道路ネットワーク全体での改善を図る。
(町長)

その他の質問

- ・調整池の整備について
- ・インクルーシブ社会の実現へ

Q 不登校支援と第三の居場所事業の推進を

A 多様な学びと連携を充実させていく



おおづ図書館 フリースペース開放

Q 全国的に不登校児童生徒が増加する中、本町においても同様の傾向が見られる。不登校支援の現状と課題を踏まえ、学校外で学ぶ児童生徒の把握状況、出席認定の実態、民間施設や子ども第三の居場所の周知方法、学校・教育委員会との連携体制について確認したい。あわせて、おおづ図書館やオークスプラザで実施された放課後フリースペースの継続実施、地域学校協働活動による居場所づくりの支援、保護者同士が悩みを共有できる場の再開について問う。

A 不登校支援では学校復帰のみを目標とせず、将来の自立や社会参加を見据えた包括的支援を重視し、第三の居場所については、一定の要件を満たす場合は出席認定を行っている。子どもの居場所づくりについては、実証事業を通じ一定のニーズを確認しており、関係部署や民間団体と連携し継続的な取組を検討する。あわせて、地域学校協働活動の人材確保や保護者支援の充実にも取り組んでいく。

(教育長)

Q PFAS規制強化のため県の条例の改正を

A 慎重な検討が必要だ

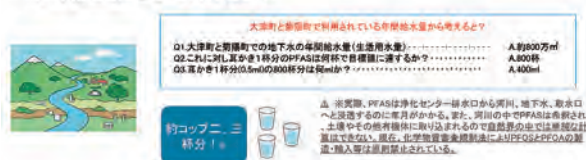


飲料水に係るPFOSとPFOAの目標値 50ng/L

①50mプールで例えると？



②年間給水量から考えると？



Q 50 ng/Lは低濃度だが、世界はさらに厳しい規制へ動いている。PFASは一度環境に出ると分解されず、体内に蓄積し続ける。極めて厄介な性質を持ったため、現在はPFAS全体を規制する方向が世界の潮流である。私たちが、この大津町が声を上げなければ、PFASによる汚染は長期的に見て、少しずつしずつ進んでいく。熊本県地下水保全条例第7条第1項の規制対象物質にPFASを加えるよう県に強く求めている。きたい。

A P F A S は毒性や長期影響について科学的知見が十分でなく、国や県の規制も検討途上である。本町は、健康被害が明確になる前から対応するという意味で予防原則を重視しつつ、現時点での県条例の見直し要請は慎重に判断する。一方で、県のモニタリングや専門家評価の情報共有、住民への丁寧な説明、相談体制の整備を進めるとともに、より安全側に立った基準づくりを国県に求め、今後の知見次第では踏み込んだ対応も検討していく。

（町長）

(町長)

その他の質問

- ・空港アクセス鉄道と中間駅開発について
- ・本町における子供達への自衛隊教育と名簿の提供について

Q 中間駅と周辺開発について十分に説明すべき

A なお一層の丁寧な説明が必要



その他の質問

- ・旅費条例の宿泊費の見直し
- ・下水道使用料の値上げを抑制する計画が必要

さとう しんじ
佐藤 真二議員



Q 現時点では構想段階だが、将来の町にとって有力な選択肢の一つである。これまで、まちづくりに懇談会や広報紙などを通じて、段階的に伝えてきたが、関心の高さや影響の大きさを踏まえれば、なお一層丁寧な説明が必要だ。(町長)

A 開発は「有力な選択肢」だと言うが、以前は「必要不可欠」だと言われていた。この差は何か。

Q 現時点では構想段階だが、将来の町にとって有力な選択肢の一つである。これまで、まちづくりに懇談会や広報紙などを通じて、段階的に伝えてきたが、関心の高さや影響の大きさを踏まえれば、なお一層丁寧な説明が必要だ。(町長)

A 大津町の持続性をさらに高めるという意味で、中間駅・周辺開発は、私自身は必要なものと考えている。

ただし、これから、様々な状況が判明してくる。そこも踏まえた上で、しっかりと規模内容を見極めていくことが必要だという意味で、有力な選択肢と言った。(町長)

Q 外国人受け入れ支援の充実を

A 多言語化や優しい日本語による情報提供に努める



10年前と比較した上位5道県の外国人住民増加割合

その他の質問

- ・町の道路管理について

おおつか ますお
大塚 益雄議員



Q 国内産業の多くが外国人なしでは成り立たない。熊本県において技能実習生を含む労働者らが地場産業の担い手として定着している。

大津町も1233人の外国人が住んで年々増加している。地域では、ごみ出し、ごみ分別、ごみポイ捨て、交通マナーの問題があり住民からの苦情もあると聞く。今後多文化共生社会の実現に向け外国人への日本語教育の支援や日本のルール、マナーの周知を進めて行く必要があるし未来に向けた政策が求められる。

A 国全体で人口減少が加速する中、本町でも外国人住民の数は急激に増加しており、1200人を超え、本町としては外国人の共生を進める上で、生活のルールの見える化と多言語化や優しい日本語によるわかりやすい情報提供、企業連絡協議会と連携した取組の推進を大切にしていく。また、地域で発生しているゴミ出しや生活マナーの課題については、文化や習慣の違い、日本のルールを知る機会が不十分であるケースが少なくない。そこで外国人住民への支援と同時に、受入側の日本住民への啓発も含めた双方への理解を進めていくことが、誰にとっても暮らしやすい町づくりにつながると考える。(町長)

Q 子育て世代や若年層が安心して住める町づくり

A 住まいの不安に対応していくことが町の基本

**大津町に東京圏から移住される方へ
移住支援金を支給します!!**

【令和7年度版】

支援金の額
世帯:100万円 単身:60万円
1世帯世帯の世帯員を1人として算定する。2世帯世帯の世帯員1人につき世帯100万円を上限とする。

主な支給要件
【移住元要件】 東京23区に在住 または 東京圏に在住で東京23区に通勤していた方

【移住先要件】 大津町へ移住し、就業等をした方

1. 就業に就く要件
2. 就業に就く要件
3. 就業に就く要件
4. 就業に就く要件
5. 就業に就く要件

移住支援金の交付までの流れ

大津町建設課 020-293-2111

やまもと ふじお
山本 富二夫議員



Q TSMCの進出以後、周辺地域の住宅価格・家賃が上昇している。水が美味しく、自然豊かで住みやすく子育てしやすいと感じて、大津町に住まわれた方々が、子どもたちが小学校入学を控え、子ども部屋がある住まいを探したときに、今の収入では家賃が高く支払えないので、家賃が安い地域に住まいを探すとされているのが、大津町に住まわれている子育て世代や若年層の声です。

A 今の現状は、子育て世代の町外流出が起きていると感じるのである。

A 広く家賃補填を行う仕組みを設けるのではなく、公営住宅の活用や空き家の活用、福祉制度の案内といった別の手段で、住まいの不安に対応して行くことが大津町の基本的な考え方だ。中長期的には、将来の町の姿を見据えた都市計画の中で家賃の負担を上回る暮らしやすさを感じていただけるような町づくりを進める。

A 移住支援金は東京圏から、東小・北小校区へ移住し、一定の条件を満たす場合には、世帯で百万円、18才未満の子どものつき最大百万円を加算する仕組みもある。

(総務部長)

その他の質問

- ・人生100年時代の健康づくりと高齢者が支える側に回る社会づくりを
- ・狩猟免許取得等にかかる、毎年の必要経費を町負担すべきだ

Q 町営住宅や公共施設への防犯カメラ整備は

A 優先順位を整理し、整備や補修を行う

町営住宅の駐輪場に防犯カメラの設置を!

いたずらや盗難が増えています!

事故・事件が心配...

防犯カメラで見守りを!

防犯対策が必要です!

にしかわ ひでつぐ
西川 秀貢議員



Q 町内では、盗難や空き巣が増え、町民の不安は高まっている。町民の命や財産を守るのには行政に課せられた最も基本的かつ重大な使命である。防犯カメラ整備は、費用が掛かってでもやるべき施策であり、対策を先送りすれば町民の信頼を失う事に繋がる。町の環境が急速に変化する中、町営住宅や他の公共施設に

A 小さな犯罪であっても放置すれば地域の安心を損ない、より大きな判断に繋がるという認識が重要、住民の皆様の安全と安心を守る事は、最優先事業の一つであり、しっかりと全体的な視点を持ちながら進めていく。

(町長)

その他の質問

- ・大津町の三大祭りの継続と支援のあり方について
- ・義務教育における金融教育の導入について

定例会総括

議員の視点

委員会レポート

一般質問

委員会からの政策提言

委員会視察報告

議会改革推進特別委員会

尚絅大学

翔陽高校

子どもはSOSを出せているか

A 相談しやすい環境づくりを継続

■SOSの出し方教育で深刻化を防ぐ（久留米市の取り組みより）

① 実施内容

小中学校で年に1回継続的に実施（教職員向けにも実施）
未就学児ワークショップも試験実施中
学校と子ども未来部（子ども家庭総合支援拠点）が連携
必要時は児童相談所へ早期接続



② 効果

- ・家庭ではなく、学校からの早期相談が増加
- ・深刻化する前に相談が盛くケースが増加
- ・共通認識ができたことにより、子どもがSOSを「出してもいい」「言ってもいい」と思えるようになった
- ・「先生に言ってみる」が増えた（＝学校文化が変化）
- ・就学前の不安の声などが聞けている



③ ポイント

- ・費用ほぼ不要（講師謝金のみ）
- ・授業の中で実施可能で現場負担が小さい
- ・既存のSSW・SCとも相性が良い

⇒ 大津町でも「声を出せない構造」を変えるための有効な選択肢

なかやま
中山
なおゆき
直之議員



Q 児童虐待相談件数は増加傾向にあり、どの家庭にも起こり得る問題である。一方で、「相談したら大ごとになると思った」「知らない大人には話せなかった」「自分が悪いと思った」など、子どもがSOSを出せなかった理由も示されている。窓口や制度があるだけでは声は届きにくく、学校の中で子どもが大人に相談しても大丈夫だと思える雰囲気や文化形成されているかが重要である。深刻化する前に子ども

もから大人につながる予防的な取り組みが重要である。他自治体で実施されている「SOSの出し方ワークショップ（CAPプログラム）」のように、関係部署が連携し仕組みとして実施する考えはあるか。

A 乳幼児期は自らSOSを発することが難しいため、日常の接点での気づきを重視している。学校では、いつでも相談できる雰囲気づくりに取り組むとともに、タブレットや電話による相談窓口を整備している。今後も周知と環境づくりに取り組んでいく。

（町長・教育部長）

その他の質問

- ・発達障がい支援体制とインクルーシブ教育の取組について

肥後大津駅西側、灰塚3号踏切の安全確保を

A 関係機関と協議し、駅周辺安全性向上を図る



狭小で離合が困難な駅西灰塚3号踏切

ときまつ
時松
ともひろ
智弘議員



Q 町が進める肥後大津駅周辺整備事業は、空港アクセス鉄道ルート決定などの機会を最大限生かし、町全体を活性化させる将来ビジョン実現に向けて大きく動き出したと認識している。

鉄道建設が始まる際には鉄道に関する知識を涵養し正確に議論しなければ税金の無駄になる。踏切や付帯施設の研究を行うべきだ。

灰塚3号踏切幅は最も有効かつオーバークロスに比べ費用対効果にも優れた改善手段。鉄道建設の基準に照らし整備の考えを伺う。

A 駅西側の灰塚3号踏切はご指摘の通り、普通車同士の離合が困難で、歩行者用の横断空間もほとんど確保されていない状況と認識している。

踏切の改良は鉄道の安全確保に関する技術基準や保安設備、用地条件などとの整合が必要であり国土交通省、JR九州を始め関係機関との協議が不可欠だ。道路機能強化と駅周辺の歩きやすさ、回遊性向上に取り組む。

中長期的な視点で、踏切道改良促進法に基づく地方踏切道改良計画への位置付けを視野に事業補助の活用についても確認し、事業化と財源確保に向けた整理を進める。

（町長）

その他の質問

- ・学校給食単価見直しとふるさと納税の活用について
- ・宿泊税の使途と活気にぎわいを生む仕組みづくりについて
- ・教職員の職務専念の義務と政治活動について

常任委員会からの政策提言

毎年総務常任委員会、経済建設常任委員会、文教厚生常任委員会では、町内の課題を抽出し、町執行部に対して課題解決のための政策提言を行っております。

令和7年度に関しても、各常任委員会から12月定例会最終日に議長を通して、町長へ提言を行いました。



総務常任委員会

- ① 町民にとって真に役に立つ公共交通の創出
- ② 役場窓口業務の外部委託の推進
- ③ DXの推進と「行かない役場」の環境づくり
- ④ 納税者の気持ちに沿った受益の確保と活用
- ⑤ 気候変動による熱中症から町民の生活を守る取り組みを

経済建設常任委員会

- ① 肥後大津駅周辺整備について
- ② 町道拡幅の整備について
- ③ 林道作業道の整備について

詳しくはこちらから↓



文教厚生常任委員会

- ① 大津町が多文化共生社会のよいモデルとなるための取り組み
- ② 大津町における特認校制度の拡充に関する提言

総務常任委員会 行政視察レポート

視察テーマ

- 宮城県 : 1. 仙台空港アクセス線について
 福島県双葉町 : 2. 東日本大震災(当時の状況・避難体制など)について
 茨城県高萩市 : 3. 「My Rideのるる」について

通との結節強化について視察と意見交換を行いました。
 福島県双葉町では原子力災害からの復旧復興状況をご教示いただきました。茨城県高萩市ではA I オンデマンドバス事業について、研修および乗車視察を行いあわせて高萩市内の施設を2カ所視察しました。

今回の視察では、阿蘇くまもと空港アクセス鉄道計画と類似している仙台空港(株)を視察し、上下分離方式により運行をJR東日本、鉄道インフラの整備維持を第3セクターの鉄道会社が行っていました。また、中間駅想定と合致する美田園駅の駅本屋、ホームのデザイン、運行にかかわる施設と駅周辺の駐車場やバスベイの整備状況を現地で確認でき、名取市公共交通の「なとりんくる」との結節の必要性も認識することもでき、大変有意義な視察となりました。



総務常任委員会は、令和7年11月17日より19日迄の3日間、宮城県、福島県ならびに茨城県を訪問し行政視察を行いました。

宮城県では仙台空港鉄道(株)を訪問し空港アクセス鉄道事業の概要と中間駅周辺整備、公共交通

経済建設常任委員会 行政視察レポート

視察テーマ

- 福岡県福岡市 : 1. 九州半導体産業展
 福岡県新宮町 : 2. 都市計画マスタープランについて
 熊本県上天草市 : 3. 商工会の取り組みおよび市との連携について TATUYAの取り組み



経済建設委員会は令和7年10月8日～10日に行政視察を行いました。

福岡市の九州半導体産業展では「なぜ半導体企業が熊本を選んだのか」という点で地政学的な観点での説明や九州半導体の歴史、県内工業団地の整備状況、半導体人材育成の確保の現在の状況などの講演を受けました。

新宮町での都市計画マスタープランに関する意見交換では都市計画マスタープランの中間見直しを行っている状況や官民協働による「災害時の支援活動拠点」となるモデル市街地づくりなどの説明を受けました。

上天草市の観光振興に関する意見交換では民間投資が行われた上でのインバウンドの動きや様々な企業が共存し、相互作用が起こり地域全体の価値が向上した事例、

上天草デジタル商品券の状況など多岐にわたる意見交換でした。

人口増加や住民ニーズの多様化などにより、職員不足が続いている中、いかに民間の力を行政が活用していくのかを重点的に学ばせていただきました。

文教厚生常任委員会 行政視察レポート

視察テーマ

- 大阪府泉大津市：1. 泉大津市立図書館「SHEEPLA（シープラ）」の取り組みについて
大阪府泉南市：2. 「小規模特認校 泉南市立東小学校」の取り組みについて



2カ所の取り組みに共通しているのは、地域全体で子どもを育てるという熱い想いです。地域特性や課題はそれぞれですが、好事例をしっかりと学ばせていただきましたので、当町にも還元していきたいと思っています。

10月30日（木）泉大津市立図書館「シープラ」を訪れました。平日の13時にも関わらず老若男女、多くの来館者が見受けられました。泉大津駅直結の商業施設4階フロア全体が図書館であり、買物物ついでに立ち寄れるのが利用しやすいにつながっていると思いました。

子どもの居場所として、「〇〇してはいけない」と禁止するのではなく、「お互いに快適な空間づくり」を唯一のルールとして掲げていることが、来館しやすい雰囲気づくりにつながっているとのことでした。「OKにする方法を、大人が考える」という館長の言葉に深く共感しました。

翌日10月31日（金）、泉南市立東小学校を訪れました。令和7年度の全校児童78名のうち地元児童は15名、特認校制度利用児童は63名。市内全校区から制度利用可能、中学校進学は在住校区へ戻る。遠距離通学はデメリットだが、コミュニティバス運行と運賃補助により負担軽減が図られているなどの説明を受け、当町でも取り入れられる先進事例だと感じました。

議会改革推進特別委員会 視察レポート

視察テーマ

- 福岡県 志免町・粕屋町：
1. 議会活性化の取り組みについて



議会改革推進特別委員会は令和7年11月20日と21日に福岡県志免町・粕屋町の2か所を視察しました。

策・施策にフィードバックされ、その結果は議会だよりで報告されます。

粕屋町は平成22年に策定された議会基本条例が実際に機能しているのかを検証するところから議会改革をスタートさせています。それを踏まえて基本条例で定められた項目に実効性を持たせるため必要要件を定めるなどドラステックに取り組んでいました。

いずれも今後の大津町議会の取り組みの先例として参考になるものでした。

この他、令和7年7月26日に玉名市で開催された、「対話による地方議会改革フォーラム勉強会」にも研修として参加しています。

定例会総括

議員の視点

委員会レポート

一般質問

委員会からの
政策提言

委員会視察報告

議会改革
推進特別委員会

尚綱大学

翔陽高校

議会改革推進特別委員会の取り組み

設置期間 令和7年6月～令和8年12月
委員長 佐藤真二 副委員長 三宮美香
委員 西川秀貢 清原さおり 岩下啓史

昨年3月の改選を受け新たに「議会改革推進特別委員会」を設置し、6月から活動しています。前期は「議会活性化特別委員会」で議員のなり手不足対策に取り組み「投票できる選挙」の実現につなげました。

今期は「“議会”と“議員”の活動の見える化」や「議会機能の充実」などに取り組んでいきます。

主な取り組み項目

議員活動の見える化	議会HPへの個人SNS等リンク集の掲載
	町内イベント等でのポスターセッション
議会活動の見える化	議会公式SNSの導入
	議会ホームページの機能充実
	町民（団体）との対話・議会イベント
議会機能の充実	議会としての政策提案の仕組みづくり
	反問権の導入検討
	第2次議会DX推進計画の策定と実施

中でも「議員活動の見える化」は、議員報酬の改定を審議した令和6年の特別職報酬等審議会の答申において「議員個人の活動が住民に伝わるような情報発信」が求められており、議会もその実現に努めることを決議しています。

議会ホームページでは、これまで会議の議題のみを掲載していたものに簡単な説明を加えたり、議員名簿の情報を充実させたり、委員会の審議記録を公開する

など、少しずつ充実していています。

議会公式SNSも令和8年1月から開始（試行）しています。（右）

また、議員個人の情報発信を知らせるため、議会ホームページに個人SNSや、活動報告書などへのリンクを掲載しています。

しかし個人SNSの公表にはリスクが伴うものとの懸念もあり、運用ガイドラインを策定し、問題が発生した場合は掲載中止にすることとしています。

今後も成果を積み重ねながら、議会改革を推進していきます。



議会公式の
Instagram
友達追加を
お願いします



～議会・議員活動の見える化活動のひとつ～

みんなで行こう！オープン議場 with 福祉まつり

一昨年から始めた福祉まつりに合わせた「議場開放」、昨年は衆院選で実施できませんでしたが、今年は10月19日、「みんなで行こう！オープン議場with福祉まつり」を開催しました。200人を超える町民の皆さんが議場に入られ、議長席や町長席に座っての写真撮影など、普段はできない経験をしていただきました。

また、少しでも議員のことを知っていただこうと、各議員の机の上に、趣味や一日の過ごし方など、プライベートな面も含め議員を紹介するポスターを掲示しました。



大津町議員との意見交換会を終えて

11月12日（水）に尚綱大学現代文化学部3年生25名と大津町議会広報委員5人とで現代文化学部の課題探求プロジェクト演習の授業の場において意見交換会を行いました。3年生の学生は、アルバイトなどの社会体験もある関係で、意見交換会の後、率直な個人的意見を含めたレポートを提出しています。以下学生の考えを抜粋し紹介します。

1、印象に残ったこと



現代文化学部
3年
まえだ りん
前田 凛さん

大津町議員との交流で印象に残ったことが2つあります。1つ目は、「おおづまち議会だより」についてです。大津町議会が行ったことをただ書くのではなく、文字の間隔を広めたり、20ページフルカラーにしたりと町民に見てもらおうための工夫が印象に残りました。2つ目は、乗り合いタクシー制度です。区域内であればどこでも降車・乗車ができる制度で、調べたところ150円～（区域によるが）利用できるそうです。近年ではバスの本数が減ったり、値段が上がったりと簡単にバスを利用しにくくなっているのが非常によい制度だなと印象に残りました。

2、疑問に感じたこと

大津町では議会だよりの発行に1回でかなりの額を使用しているところに少々疑問ももちました。たしかに高齢者や若者のどちらにも見てもらいたいという気持ちは分かるのですが、若者は紙媒体で見る人は少なくWeb上で見る人が多いと思います。そのため、発行部数を減らして議会だよりを紙媒体で欲しい人だけがもらえるようにしたいのではないかと考えました。町民に直接聞いたり、アンケートを取ったりするなどして今後の発行にかける費用を改める必要があると感じました。



現代文化学部
3年
まつもと なお
松本 菜央さん

今回は、議会の活動を中心に、大津町が力を入れる取り組みについてお話を聞きました。その中で私が特に興味をもったのは、若者世代と高齢者世代へ向けた取り組みです。

授業内で配布された大津町の議会だよりは、若い世代にも興味をもってもらえるようにとリニューアルされたものらしく、全ページカラーとなっており、比較的文字が大きいほか文字数も減らし読みやすくなっていることが特色でした。QRコードが記載されており、スマートフォンで読みこむことができるページが多いのも印象的でした。

このリニューアルは、スマートフォンが身近な若者だけでなく、高齢者にとってもメリットがあり、すべてをデジタルではなく、あえて紙のまま残し、大きな文字で高齢者も読みやすくなっています。

また、大津町は人口が増加傾向で子育て世帯をピックアップすることが多いというお話も聞きましたが、高齢者の自動車免許自主返納に対する特典や、安価な料金で乗合タクシーが利用可能といった支援もされており、若い世代・高齢者世代の双方に目を向けた取り組みがなされていることに感心しました。

翔陽生 大津町議会傍聴に

12月15日(月)、大津町議会(一般質問2日目)の様子を翔陽高校3年次生20名(政治経済受講者)が傍聴させて頂きました。7月の参院選の前には模擬公開討論会・模擬投票の授業を行い、主権者としての意識が高まった生徒たち。今回は議場から見える眺めの良さに感動するとともに、議会の雰囲気を肌で感じ取ることができました。生徒たちのレポートの中から一部をご紹介します。



たなか りおん
田中 璃音さん
(菊池北中出身)

議会を傍聴してみて大津町には「いち早く発展していきたい」という想いがとても強くある一方で、政策や具体的な対策がまだ十分に進んでいないという部分もあることを感じました。また、大津町に住んでいる人たちが大津町の現状や課題を知る機会が少ないことは一つの課題だと感じました。今回、政治経済の授業で傍聴したから私たちは色々なことを学べましたが、そうでなかったら何も知らないまま大人になったかもしれません。若い世代にも分かりやすく伝える工夫が必要だと思いました。私は大津町の高校生の一人として、町の未来を「決められる側」から「考えていく側」として関わっていきたくと思いました。例えば今回の議会傍聴での内容をともだちと共有したり、自分の意見を伝えられる機会があれば積極的に参加し、若い世代の声を町に届けていきたいです。今回の傍聴が、町の未来を自分事として考えていく良いきっかけになりました。

私は生まれたときから住んでいる大津町は住みやすく良い町だと感じながら過ごしてきましたが、課題もたくさんあり、それらの解決に向けて着実に動いているんだと感じました。私たちが直接意見を伝えるのは難しいと感じるけれど、今回のように議会を傍聴したり、「議会だより」などに目を通して現状を把握し、選挙などがあれば必ず自分の意思で投票するという形で関わっていきたくと思いました。

今回の傍聴で「そんなことがあるんだ」と全く知らなかった大津町の課題を知ることができ、今の私たちの生活にも関係が深い話題もありました。今後の動きに注目して、課題解決に向けた動きを見ていきたいです。



たしろ はなび
田代 葉夏陽さん
(大津北中出身)

半導体を中心として様々な企業が発達している大津町では地下水や下水道問題などの課題を今回の一般質問では挙げられており、それぞれの問題への回答を知ることができました。地下水問題については、しっかりとした情報や知識をもう一度身に付けることで公害の恐ろしさや汚水の影響力を知り、地下水問題の危険性を理解していくべきだと思いました。また、スピード感を重視すべきだという意見が出ており、計画的に進めるためには、明確に時期を設定し、周りの方を安心させることにつながる政治の進め方の重要性を学びました。社会全体の経済状況を踏まえた考えを一人の大人として考えることで色々な問題に関わることができると感じました。大津町だけでなく、住んでいる市町村や卒業後、生活する場所についても知りたいと思います。



そそぎ ゆいか
淋 結香さん
(楠中出身)

初めて議会を傍聴しました。議会中はとても静かで緊張した雰囲気でしたが、休憩に入ると議員の方が話しかけてくださったりしました。今回傍聴した議会の一般質問では、地下水の取水量の問題を聞き、TSMC 進出により交通量も増え、渋滞問題もある中で、住んでいる住民にとっては問題視される内容だと思いました。また自衛隊への個人情報の提供の除外申請については、そのような制度ができることを知らなかったため、私たち世代も知ることができるように、学校の廊下にポスターを貼ったり、SNS を活用して除外申請できることをアップすると若い世代の目にも入るのでは、と考えました。



いせり すずな
井芹 涼菜さん
(阿蘇西原中出身)

議 会 を 観 て の 生 の 声

12月定例会の傍聴者数のべ112人、ライブ配信再生回数861回 録画配信再生回数362回(1/28時点)

議会を傍聴して貴重な体験ができました。



大津町商工会青年部
部長 黒田 晃さん

議会の一般質問を傍聴しました。傍聴の機会は2回目です。内容として祭り事業への予算については、大津町の祭り、イベントを第一線で動いている身としてはとてもありがたい内容でした。問答がスムーズなのは事前に質問が通達してあり、回答が準備してあるんだらうと、国会と同様で町のバージョンを聞くのは楽しくも思います。しかし、回答を準備してある上で質問に対して本質な部分での回答なのかという疑問も残り、簡単に回答できない問答もあるとは分かる上で、回答ができない問答を議会でする必要性はどうなんだろうという気持ちもありました。回答ができないなら当たり障りのない回答より、しっかりと協議した上での回答、そしてそれに対する問答を聞きたいという感想もありました。

どちらにしても、文面では見ない、気付かない内容を議会では聞いて把握できるので貴重な経験だなと思いました。

こんな意見もありました

一般質問、始めて傍聴させていただきましたが、町長との意見のやり取り、色々な問題の深いところまでのやり取りが凄いな、と思いました。

こちら側が色々な問題を投げ掛けないと、問題は何も解決しないままなんだなと思いました。

インスタ 開設しました

Follow Me

公式Instagram開設 フォローをお願いします。

「議員って日頃どんなことをしているの」との声をいただき、それに応えるため大津町議会で公式Instagramを開設しました。Instagram内では議員の紹介や活動を動画などで分かりやすく紹介していきます。ぜひ、フォローをお願いします。



次回定例会は

3月2日(月)開催予定

(日程は変更になる場合があります)

日程 3月2日(月)～19日(木) (予定)

会場 庁舎 4階 議場

議会広報編集特別委員会

編集 (委員長) 大村 裕一郎 (副委員長) 清原 さおり

(委員) 三宮 美香/村山 龍一/中山 直之

発行責任者: (議長) 坂本 典光

令和8年2月16日 第114号 発行/熊本県菊池郡大津町議会
編集/議会広報編集特別委員会 印刷/株式会社キャップ

〒869-1292 熊本県菊池郡大津町大津1233 ☎(096)293-8989

編集後記

本年は、大津町が町村合併をして、70年となり、熊本地震から10年となる節目の年です。阿蘇くまもと空港アクセス鉄道の整備計画、大津町振興総合計画、大津町都市計画マスタープランなど、これからの大津町の計画が進められる年でもあります。議会だよりも町民の方々にわかりやすく町や議会の取り組みを伝えられるように編集できればと思っております。

(村山龍一)